「國分寺學」を学ぶ

国分寺市史研究　第二号

国分寺市教育委員会

「國分寺學」を学ぶ　国分寺市史研究　第二号　国分寺市教育委員会

「國分寺學」を学ぶ

国分寺市史研究　第二号



新たな市史編さん事業に寄せて



本市では、昨年度からスタートした第二次国分寺市総合ビジョンに掲げる「歴史をつなぎ　未来をひらく　個性がひかり輝くまち」の実現に向け、市民の皆様と共に持続可能なまちづくりを進めています。

そのためには、歴史や文化を守り伝えていくだけでなく、地域の魅力や価値を次の世代へ受け継ぎ、新たな価値の創造へとつなげていくことが大切です。「すべての人が主役であること」「変化に対しなやかであること」「まちの心地良さを未来へつなげること」という基本理念の下、それぞれの個性を生かしながら、未来に向けたまちづくりを進めていくことが期待されています。

「古きをたずねて新しきを知る」という言葉があるように、地域に残された資料や人々の記憶をひもとき、これまで歩んできた国分寺の歴史を振り返ることは、これからのまちづくりを考える上で大きな道しるべとなります。

「国分寺学」は、こうした地域資源を学術的な視点と市民の視点の双方から掘り起こし、その価値を社会全体で共有し、未来へ生かしていく取組です。地域を総合的に捉え、地域、市民、研究者、教育機関、行政が共に学び、語り合いながら、新たな知見を積み重ねていくことは、本市の文化的価値を高める

とともに、持続可能なまちづくりを支える力になるものだと考えています。

本誌に所収した講演録や研究報告は、国分寺の歴史や文化をより深く理解するための貴重な成果であり、「国分寺学」の更なる発展につながる大切な一歩です。この成果が多くの市民の皆様に共有され、新たな学びの広がりを生み出すとともに、地域の未来を考えるきっかけになることを期待しています。

そして、「昨日より今日、今日より明日」と、より良い国分寺を次の世代へつないでいく力となることを心より願い、序文といたします。

結びに、本誌の刊行に当たり、貴重な資料や情報を御提供いただいた市民の皆様をはじめ、調査・研究に御尽力いただいた執筆者、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和八年九月

国分寺市長

丸山哲平

「国分寺学」と「市史研究」



私たちの国分寺市は、市名の由来となった国指定史跡「武蔵国分寺跡」をはじめ、お鷹の道や真姿の池湧水群など、歴史と水辺の風景が調和したまちです。また、光町にある教育センターの横には、新幹線の開発車両として活躍した九五一形試験電車が展示されており、日本の高度経済成長を駆け抜けた技術の歩みを身近に感じることができます。

このような身近なまちの魅力を探究し、理解を深めていく取組が「国分寺学」です。自分たちの暮らすまちの歴史や文化、自然について知ることは、新しい発見につながるだけでなく、自分自身やこのまちの未来について考えるきっかけにもなるでしょう。

その学びを支える「市史研究」は、昔の人々がどのように暮らし、まちを築いてきたのか、その歩みや思いを知るための大切な手がかりです。「国分寺学」を通してふるさと国分寺の魅力を未来へつなぎ、豊かな未来を切り拓いてくれることを心から期待しています。

令和八年九月

国分寺市教育長

宮本学

目次

■講演会の記録■

名字のルーツにみる日本人のくらしと文化　森岡　浩・・・・・・1
国分寺市のことをもっと知ろう～歴史と民俗から～　新谷　尚紀・・・・・24

■小特集■

武蔵国分寺の学史を振り返る　坂誥　秀一・・・・・53
内藤古瓦教室の人びと・・・・・58
国分寺跡の発掘・・・・・67
武蔵国分寺跡問題の経過と現状・・・・・71
国分寺跡の保存と地域計画・・・・・76
武蔵国分寺跡の諸問題　解説・・・・・87
埼玉県八坂前瓦窯跡の調査・・・・・89
滝口宏先生と武蔵国分寺跡・・・・・97

■ 研究ノート ■

戊辰戦争と国分寺の村々―国分寺村名主の記録から―　宮澤　歩美・・・・・100

■ 資料紹介 ■

国分寺（旧国分寺市文化財保存館資料）の石棒と関連資料　野口　淳・・・・・116

恋ヶ窪遺跡における縄文時代の様相と植物利用　寺前　めぐみ・・・・133

恋ヶ窪遺跡出土縄紋中期連弧文土器の種実圧痕とその年代測定
小林謙一・西本志保子・奈良部大樹・佐々木由香・宮田将寛・米田穣・尾嵜大真・大森貴之・・143

甲府城下町遺跡出土の「古くぶんじ　田中屋」銘の汽車土瓶　依田　亮一・宮川　展夫・・・153

令和7年度市史編さん室業務日誌・・・・・